

100回目大会 56校熱い夏



開会式中に給水タイム

開会式中の「給水タイム」で喉を潤す光星ナイン(中央列)



「幸せを感じて戦つ」
○:約4万2千人の観衆の中で入場行進を終えた光星ナインは、長南主将は「楽しかった。全く緊張しなかった」と声を弾

ませた。開会式前、「人数えぐい(すこ)いな」と盛り上がるナインに「楽しんでいこ」と声を掛けたり、スタンドから「光星、がんばれ」と声援が聞こえ、いっそう気

持ちが高ぶったという。うれしかったし、期待にも感動した。こういうところで野球をできる幸せを感じながら戦つ」と力を込めた。

近藤 俊太 内野手(3年)



県大会での打率は5割超え、神奈川県甲子園内では、自身の甲子園出場を祝う垂れ幕が設置されていることを両親から

光星
甲子園だより

地元、先輩に恩返しを

聞き「素直にうれしい。応援してもらっていることへの感謝を忘れずに戦つ」と気を引き締める。いつも一緒に自主練習してきた先輩から譲り受けた公式戦用ソックスを、まずは絶対に甲子園に行けと、応援してくれた。優勝して恩返しをしたい」と固く誓う。
(神奈川県・秋葉中出身、177センチ、75キロ、右投げ左打ち)